

## 第4 1回建設業経理事務士検定試験

### 3級試験問題

#### 注意事項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
一	千	百	十	一	千	百	十	一
億	万	万	万	万	の	の	の	の
の	の	の	の	の	位	位	位	位
位	位	位	位	位				

3. 解答は、指定したワク内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 設問中の各取引について、消費税は一切考慮しないこととします。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2ヵ所あります。2ヵ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。  
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 甲工務店の次の各取引について仕訳を示しなさい。使用する勘定科目は下記の〈勘定科目群〉から選び、その記号（A～X）と勘定科目を書くこと。なお、解答は次に掲げた（例）に対する解答例にならって記入しなさい。（20点）

（例） 現金¥100,000を当座預金に預け入れた。

- (1) 営業部員から、かねて仮払金で処理していた旅費の概算払¥100,000を精算し、残額¥50,000を現金で受け取った。
- (2) 仮受金として処理していた¥500,000は、工事の受注に伴う前受金であることが判明した。
- (3) 下請業者から、作業完了の報告があり、¥1,500,000の請求を受けた。
- (4) 本社建物の補修を行い、その代金¥830,000のうち¥500,000は小切手を振出して支払い、残額は翌月払いとした。なお、補修代金のうち¥330,000は修繕のための支出であり、残額は改良のための支出である。
- (5) 決算に際して完成工事原価¥500,000を損益勘定に振り替えた。

〈勘定科目群〉

A 現金	B 当座預金	C 建物	D 仮払金	E 有価証券
F 完成工事未収入金	G 仮受金	H 未払金	J 工事未払金	K 支払手形
L 未成工事受入金	M 経費	N 完成工事原価	Q 外注費	R 法定福利費
S 旅費交通費	T 修繕維持費	U 減価償却費	W 完成工事高	X 損益

〔第2問〕 次の原価計算表と未成工事支出金勘定に基づき、解答用紙の完成工事原価報告書を作成しなさい。（12点）

### 原価計算表

（単位：円）

摘 要	A工事		B工事		C工事	D工事	合 計
	前期繰越	当期発生	前期繰越	当期発生	当期発生	当期発生	
材 料 費	× × ×	100,000	× × ×	× × ×	88,000	× × ×	× × ×
労 務 費	95,000	× × ×	× × ×	64,000	× × ×	86,000	488,000
外 注 費	180,000	100,000	90,000	× × ×	88,000	78,000	634,000
経 費	90,000	78,000	40,000	38,000	38,000	× × ×	300,000
合 計	580,000	405,000	× × ×	× × ×	250,000	256,000	× × ×
期末の状況	完 成		完 成		未 完 成	未 完 成	

### 未成工事支出金

（単位：円）

前期繰越	902,000		完成工事原価	× × ×
材 料 費	400,000		次 期 繰 越	× × ×
労 務 費	× × ×			
外 注 費	× × ×			
経 費	× × ×			
	× × ×			

〔第3問〕 次の<資料1>及び<資料2>に基づき、解答用紙の合計残高試算表（20×5年11月30日）を完成しなさい。なお、材料は購入のつど材料勘定に記入し、現場搬入の際に材料費勘定に振り替えている。（30点）

<資料1>

合計試算表

20×5年11月15日現在

（単位：円）

借方	勘定科目	貸方
1,403,000	現金	680,000
1,857,000	当座預金	1,703,000
1,594,000	受取手形	1,082,000
1,462,000	完成工事未収入金	540,000
655,000	材料	197,000
850,000	機械装置	
426,000	備品	
1,302,000	支払手形	2,579,000
311,000	工事未払金	998,000
1,059,000	借入金	3,825,000
789,000	未成工事受入金	1,833,000
	資本金	1,600,000
	完成工事高	2,994,000
2,228,000	材料費	
1,681,000	労務費	
598,000	外注費	
905,000	経費	
817,000	給料	
58,000	通信費	
36,000	支払利息	
18,031,000		18,031,000

<資料2> 20×5年11月16日から11月30日までの取引

- 16日 現場の動力費¥30,000を現金で支払った。
- 17日 工事契約が成立し、前受金¥400,000を現金で受け取った。
- 18日 材料¥186,000を掛けで購入し、資材倉庫に搬入した。
- 21日 工事の未収代金の決済として¥380,000が当座預金に振り込まれた。
- 22日 外注業者から作業完了の報告があり、外注代金¥289,000の請求を受けた。
  - 〃 材料¥88,000を資材倉庫より現場に搬入した。
- 23日 現場作業員の賃金¥256,000を現金で支払った。
  - 〃 本社事務員の給料¥234,000を現金で支払った。
- 25日 取立依頼中の約束手形¥480,000が支払期日につき、当座預金に入金になった旨の通知を受けた。
- 27日 現場事務所の家賃¥87,000を現金で支払った。
- 29日 本社の電話代¥21,000を支払うため小切手を振り出した。
  - 〃 完成した工事を引き渡し、工事代金¥800,000のうち前受金¥200,000を差し引いた残金を約束手形で受け取った。
- 30日 材料の掛買代金¥360,000の支払いのため、約束手形を振り出した。
  - 〃 銀行より¥550,000を借り入れ、利息¥5,000を差し引かれた残額が当座預金に入金された。

〔第4問〕 次の文の  の中に入る最も適当な用語を下記の〈用語群〉の中から選び、その記号（ア～ス）を解答欄に記入しなさい。（10点）

- (1) 他人振出小切手、  a 、  b  は、現金勘定で処理される。
- (2) 固定資産の減価償却総額は、当該資産の取得原価から  c  を差し引いて計算される。
- (3) 企業の主たる経営活動から生ずる収益を  d  といい、これに属する代表的な勘定科目は、建設業においては  e  である。

〈用語群〉

ア 受取利息	イ 郵便為替証書	ウ 利益	エ 営業収益	オ 完成工事高
カ 残存価額	キ 完成工事原価	ク 貸倒引当金	コ 時価	サ 減価償却費
シ 営業外収益	ス 株式配当金領収証			

〔第5問〕 次の〈決算整理事項等〉により、解答用紙に示されているX工務店の当会計年度（20×3年1月1日～20×3年12月31日）に係る精算表を完成しなさい。なお、工事原価は未成工事支出金勘定を経由して処理する方法によっている。（28点）

〈決算整理事項等〉

- (1) 機械装置（工事現場用）について¥58,000、備品（一般管理用）について¥18,000の減価償却費を計上する。
- (2) 有価証券の時価は¥186,000である。評価損を計上する。
- (3) 受取手形と完成工事未収入金の合計額に対して2%の貸倒引当金を設定する（差額補充法）。
- (4) 未成工事支出金の次期繰越額は¥404,000である。
- (5) 支払家賃には前払分¥8,000が含まれている。
- (6) 現金の実際手許有高は¥282,000であったため、不足額は雑損失とする。
- (7) 期末において定期預金の未収利息¥2,000と借入金の未払利息¥3,000がある。